

1月のおたより

寒中見舞いは、寒さが最も厳しい時期に相手を気づかい出すおたよりです。年賀状を出すのが遅れた、またもらった年賀状の返事が遅れ、松の内（1月1日～7日、地域によっては15日まで）の期間を過ぎてから出す場合に、寒中見舞いを用います。昨年喪中だった方への新年のあいさつ状にも用います。寒中見舞いは、立春の前日（2月3日）ごろまでに出しましょう。

手紙の書き出しに用いる時候のあいさつ

・ 厳寒の候、厳寒の折、厳寒のみぎり、酷寒の候、寒冷の候、極寒の候、など

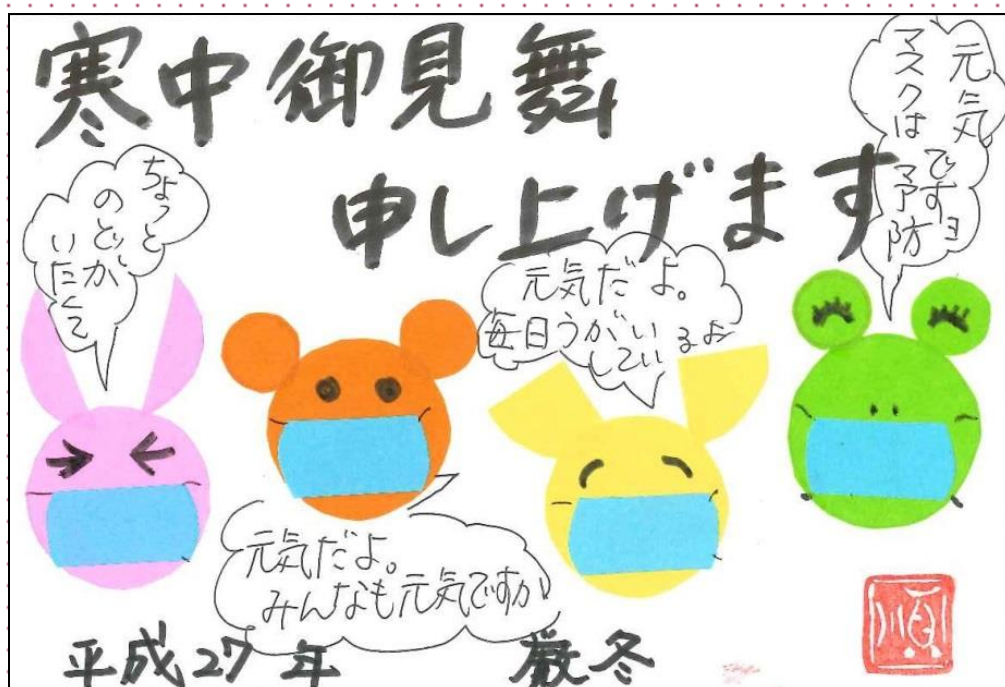
寒中見舞いの作成例を紹介します。

PFCアドバイザー山崎順子さんの作成例（貼り絵はがき）

- ①うさぎ、くま、ねずみ、かえるの顔の部分は、色紙（ピンク、茶色、黄色、緑色）を500円玉でかたどりして、はさみ（またはカッター）で切る。うさぎ、くま、ねずみの耳とかえるの目を、顔と同じ色紙でかたどりして切る。
- ②マスクの部分は、水色の色紙でかたどりして切る。
- ③はがきに寒中見舞いの言葉とメッセージを書き、かたどりのした、うさぎ、くま、ねずみ、かえるの色紙を貼る。
- ④ペンで目とマスクのゴムひもを書き完成。

用意するもの

はがき、色紙（ピンク、茶色、黄色、緑色）、ペン、はさみ（またはカッター）、のり



PFCアドバイザー高橋裕子さんの作成例（消しゴムはんこはがき）

消しゴムはんこの作成法は http://www.pfc.post.japanpost.jp/web/doc/1117_01.pdf を参考にしてください。

- ①表紙の雪だるまと雪の結晶の図案を参考に、トレーシングペーパーで写した図案（鉛筆で写した面）を消しゴムにあてて転写して、消しゴムはんこを彫る。全体の輪郭を先に彫る。彫る際はナイフの刃を上向きにし、傾けながら、前に刃を進めると良い。
- ②全体の輪郭が彫れたら、周囲を丸刃で削り落とす。線を残す方法と面を残す方法とがあるので、完成図をイメージして残りの箇所を彫る。線は角刃、丸はテザインナイフを使って彫る。
- ③完成した消しゴムはんこを押した後、「寒中お見舞い申し上げます」の文とともに、自分の近況や1年で最も寒い季節に相手の健康を気づかう言葉などを書きます。

用意するもの

はがき、消しゴム、トレーシングペーパー、鉛筆、彫刻刀（丸刃・角刃）、テザインナイフ、スタンプ、ペン

